

日本農林漁業振興会会長賞受賞

明るく元気な“集楽”づくり

みやちしゅうらく

受賞者 **宮地集落**

ぎふけんぐじょうしわらちよう
(岐阜県郡上市和良町)

■ 地域の沿革と概要

郡上市は、岐阜県の中央部に位置し、市の面積は1,030.79km²と岐阜県の面積の約10%を占めている。南北が約52kmにわたり、高低差が1,700mと大きく、北部では2mの積雪がある一方、南部では降雪がほとんどみられない。人口は44,491人(平成22年国勢調査)で減少が続いている。

和良町(旧和良村)は市の東部に位置し、冷涼な気象条件の下で野菜や水稻が栽培され、ブランド牛の「飛騨牛」が生産されている。また、和良町内を流れる和良川は、木曾川水系の源流で、その清流で獲れる「和良鮎」は日本一おいしい鮎として知られている。

第1図 位置図



注：白地図KenMapの地図画像を編集

■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

宮地集落は、和良町の中央部に位置し、総戸数53戸、総人口145人の集落である。標高は378mであり、水田面積約20haの山間地域の農業集落で、水稻作を中心として、飛騨牛を生産する専業農家が存在している。

農家は高齢化が進んでいるが、農家と非農家が連携し、集落全体で農地管理を行うことで、集落内に耕作放棄地はない。

また、歴史ある「戸隠神社」の氏子として神社の維持管理を行い、約400年の歴史を誇る祭礼を何世代にもわたって受け継いでいる。

第1表 地区の概要

事項	内容	
地区の規模	集落	
地区の性格	地縁的な集団	
農家の状況	総世帯数	53戸
	総農家数	34戸
	農家率	64.2%
	専業農家	4戸
	1種兼業農家	4戸
農地の状況	2種兼業農家	12戸
	総土地面積	131ha
	耕地面積	17ha
	田	16ha
	畑	0ha
耕地率	13.0%	
農家一戸当たり耕地面積	0.5ha	

注：2010年世界農林業センサス(個人調査)結果による

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

宮地集落では、少子高齢化の進行により、住民の誇りである戸隠神社の祭礼が実施できなくなるとの危機感が持たれていた。また、ニホンジカ、イノシシ等による農作物や庭木への食害の増加や、道路への飛び出しによる交通事故の発生など、住民生活にとって獣の存在が脅威となり、農地の荒廃や集落への愛着が失われることが懸念された。



写真1 宮地集落の皆さん

このため、集落への愛着、文化の伝承を衰退させてはならないとの強い思いから、平成8年に、集落にある地域資源を活かした、むらづくり活動に取り組むこととなった。

あわせて、平成12年からは、「中山間地域等直接支払制度」の集落協定の締結をきっかけに、懸案であった鳥獣害対策と雑草対策について、効果的な手法の研究開発に取り組むこととなった。

(2) むらづくりの推進体制

宮地集落のむらづくりは、地域の魅力発信や文化の伝承、生活環境の向上を目的として組織された4つの親睦組織と、農業生産の向上や地域資源の保全管理を目的として組織された2つの協定組織によって行われており、活動内容は各組織が発案し、取組案を住民総集會に諮った上で実行している。

ア 宮地会

40歳未満の青年で組織されている。戸隠神社の祭礼の中心を成し、毎年の神社祭礼余興の開催、神社舞台の改修等を行っている。

イ 宮地親和会

40歳以上の中高年の男性で組織されている。各戸の戸主が中心で、むらづくり活動の中核を担っている。ライトアップ事業の実施や、地域資源を活かした文化遺産のPRと地域特産品の開発によって地域の魅力の発信を行っている。このほか、「和良漬物まつり」の開催支援を行っている。

ウ 宮地年輪クラブ

65歳以上の高齢者で組織されている。農業・農村体験などを行う「ふれあい農園」では、体験のインストラクターとして活躍している。また、道路花壇の管理、神社境内の清掃作業を毎月行っている。

エ ^{みわ} 宮和会

平均年齢30代の女性で組織されている。地区の保健推進委員を務め、地域住民の福祉に大きな役割を果たしている。このほか、公民館の清掃や夏と冬の区民交流会の準備などを行っている。

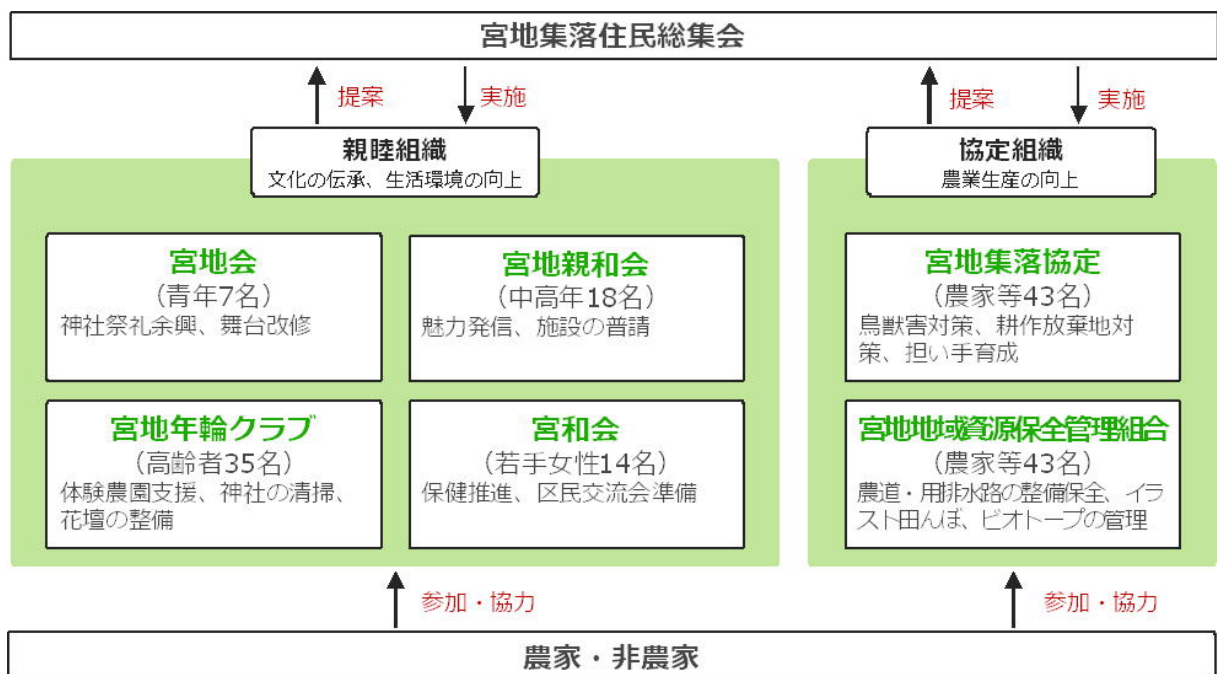
オ 宮地集落協定

中山間地域等直接支払制度の集落協定に参加する農業者等で構成されている。鳥獣害対策、耕作放棄地対策、担い手育成等に取り組んでいる。

カ 宮地地域資源保全管理組合

農地・水保全管理支払制度に取り組む集落内の農地所有者で組織されている。イラスト田んぼ等の管理のほか、芝桜ロードや用排水路の整備保全を行っている。

第2図 むらづくりの推進体制



■ むらづくりの特色と優位性

1. むらづくりの性格

宮地集落では、農地を守ることがむらづくりの基本と考え、鳥獣や雑草との長年の戦いの中で、画期的な鳥獣侵入防止柵を生み出すほか、防草ネット・シートの改良を行うなど創造力豊かで独創的な取組を行っている。

また、宮地集落においては、集落とは「住民が集まって落ち着ける場」の”集落”ではなく「住民が集まって楽しむ場」の”集楽”と考え、明るく、元気で、楽しい”集楽”づくりをテーマに、世代を超えた連携や絆を深める活動を行っている。

2. 農業生産面における特徴

(1) 鳥獣害防止の取組

宮地集落では、多発する鳥獣害を防ぐため、平成12年から鳥獣侵入防止柵の改良に取り組んできた。10年間に及ぶ試行錯誤、創意工夫の末、平成22年に画期的なイノシシ、ニホンジカ及びサルいのしか む えん さくの侵入防止柵「猪鹿無猿柵」を完成させた。そして、集落の全住民が参加し「猪鹿無猿柵」を集落周辺や農地の区画ごとに設置したことによって、農作物への食害がほとんどなくなり、安定した農業生産が可能となった。

宮地集落で開発した「猪鹿無猿柵」は、軽量・低価格、自力施工が可能であり、侵入防止効果に優れているとともに、維持管理が容易で、集落の景観に溶け込む特徴がある。このような長所が評価され、「岐阜県型総合獣害防止柵」として県内に広く普及しており、県外へも拡がりを見せている。さらに、平成25年には「猪鹿無猿柵」に鳥害防止機能を加えた「猪鹿鳥無猿柵」いのしかちょう む えん さくを完成させ、県内に普及拡大が図られている。

また、効果的に鳥獣を追い払うため、既存品の花火発射器具を改良し、従来品より安全性を高め、軽量化を図った「退散鳥獣（銃）」たいさんちょうじゅうを完成させた。集落内の工場に設立された「宮地退散鳥獣工房」において約700丁を製作し、県内外に普及するとともに、集落内には30丁を配布し、追い払いに使用している。

このほか、猟師が着用するオレンジ色のベストに団体名称を入れた「絆ベスト」を製作し、集落の全戸に配布している。本ベストの着用により鳥獣が猟師と見間違い、追い払いの効果が出ている。



写真2 猪鹿無猿柵



写真3 退散鳥獣（銃）と絆ベストで追い払い

(2) 水田作業省力化の取組（雑草対策）

宮地集落では、水田維持管理の課題となる除草作業と畦塗り作業を省力化するため、農道の法面や水路の法面、水田の畦畔けいはんに、「防草ネット・シート」と「水田畦板」あぜいたを集落の全住民が参加して設置した。これにより畦畔の管理作業が不要となり、水稻作の作業時間が軽減された。

この防草ネット・シートは従来から使用されていた黒色のものを、製造

メーカーと協力して景観になじむ緑色に改良したもので、「^{こうさく}幸作ネット」
「^{こうさく}幸作・^{ゆめ}夢シート」と名付け、現在では全国に普及している。

(3) 担い手への農地集積と耕作放棄の防止

宮地集落では、集落内の全圃場に鳥獣害対策と雑草対策を行うことで、高齢化等で耕作できなくなった農地を担い手へ集積することを可能としている。さらに、担い手に対して10a当たり1,000円の担い手育成費を交付し、集積を促進している。

この結果、平成26年には、集落内の大規模経営者と町内の農業生産法人に集落農地の50%以上を集積し（岐阜県の中山間地域における平均集積率は28%）、集落内に耕作放棄地は存在していない。



写真4 鳥獣害・雑草対策を行った田

(4) 直売所での販売を通じた高齢者の生きがいくりと健康維持

平成14年に、宮地集落内の「道の駅『和良』」に直売所が開設された。少量の農産物でも販売が可能となったことから、集落内の高齢者が栽培した野菜を出荷するようになり、収入の増加に加え、生きがいくりや健康維持にもつながっている。

3. 生活・環境整備面における特徴

(1) 生活環境整備面への取組

ア 公民館の増築や資源収集所の建設

集落の拠点施設である公民館を平成10年と14年の2回にわたり、集落の大工など職人の指導の下、住民の手作りで増築した。また、平成16年には、資源収集所「宮地エコステーション」を、住民の手作りで建設した。

この取組により、地域への愛着と住民の絆が強まることとなった。

イ 集落の景観形成

地域の環境美化のため、集落の全住民が参加して、芝桜ロード、イラスト田んぼ等の設置・管理や、老朽化した水路と農道の改修を計画的に進めているほか、地域の除草作業、河川清掃を毎年実施している。

この取組により、宮地集落に住む楽しさ・心地よさが増すとともに、来訪者の増加にも寄与している。



写真5 イラスト田んぼ

ウ 地域住民の交流促進

宮地集落では、つながりが弱くなってきた地域住民の親睦と交流を深める取組として、夏と冬に区民交流会を開催している。

この取組により、世代を超えた親睦と交流が図られ、住民の絆と地域への愛着が強まり、むらづくりに取り組む意識が向上している。

(2) 都市住民との交流の取組

ア 体験交流農園(ふれあい農園)への参画

平成8年に、町内の地域づくり団体「和良夢づくり塾」が、集落内の休耕地を利用して、体験交流農園(ふれあい農園)を開設した。宮地集落は、農業体験や農村体験のインストラクターとして協力し、これまでに延べ500家族、2,300人以上と交流を行った。

ふれあい農園での活動は、高齢者が自らの知識を生かして子供たちと交流できることから、高齢者にとって生きがいとなっている。

イ 岐阜大学生との連携

宮地集落では、岐阜大学が取り組む「和良公民館大学」と連携し、大学生との交流を平成16年から10年以上続けている。大学生は、夏と秋の年2回訪れ、集落の生活・文化の調査や郷土食の調理体験等のほか、戸隠神社祭礼の支援を行っている。

ウ 地域における伝統文化の継承

戸隠神社の祭礼は、神事や芸能が繰り広げられ、カラクリが上演される和良町で一番大きな祭りである。

これまで、祭礼は集落全戸で協力して行ってきたが、少子高齢化による人手不足が顕在化してきたため、交流を行っている岐阜大学生や近隣の子供たちに参加してもらうことで伝統文化の継承に努めている。

若者や子供たちが参加することで、集落が活気づき、文化の伝承だけでなく高齢者の生きがいづくりにもつながっている。



写真6 戸隠神社祭礼

(3) 地域の魅力発信の取組

ア ど真ん中ライトアップ事業

平成9年に、地域住民の年末年始の楽しみとして、和良村の天然記念物である「一本杉」のライトアップを始めた。その後、村の天然記念物の「重ね岩」や、「神社大鳥居」もライトアップを行い、「ど真ん中ライトアップ事業」へと発展させた。現在では、地域住民だけでなく近隣の住民にとっても冬の風物詩として広く定着している。

この取組が文化財保護として評価され、平成10年に「一本杉」が、平成15年に「戸隠神社の社叢」が岐阜県の天然記念物に指定された。

イ 地域資源の発掘・紹介

平成22年に、郡上市の「集落総点検・夢ビジョン策定モデル事業」に採択されたことを受け、地域資源の掘り起こしと活用、情報の発信、地域の特産品開発に取り組んだ。

集落の歴史的文化遺産マップ（和良パワースポットマップ）の作成や案内看板の設置、散策道の整備を行い、「パワースポット＝神の居ます風景遺産」として観光PRを行っている。

また、イラスト田んぼで栽培された米を利用して「祈願米」を、不要となった桐箆笥を利用して重ね岩（絶対落ちない岩）を描いた「合格祈願絵馬」を商品化し、販売を行っている。「祈願米」や「絵馬」の情報を聞き、神社の参拝者も増加している。



写真7 案内板と地域“笑”品

ウ 地域食の伝承

平成8年に、宮地集落の女性たちが中心となって「宮地漬物コンクール」を開催した。コンクールは大きな反響があり、集落外からも出品希望が多くあったため、和良町全体を対象とした「和良漬物まつり」に発展した。現在は100点以上の応募があり、出品者や来場者間で漬物を作る技術の情報交換が行われ、地域食の伝承と技術継承に寄与している。

エ 鳥獣被害・耕作放棄地防止に関する発信

宮地集落は、岐阜県内において最も鳥獣害対策が進んでいる地域と評価されており、これまでも、年間30件ほどの視察を県内外から受け入れてきた。

平成26年には、「和良夢づくり塾」と連携し、ふれあい農園内に鳥獣被害対策と耕作放棄地防止対策の資材を展示し、資材の設置体験も行える施設として「退散鳥獣・草園たいさんちようじゆう そうえん」を開設した。各地から視察研修を受け入れ、鳥獣被害や耕作放棄地化への具体的な防止策を提案し、宮地集落における鳥獣害対策と耕作放棄地対策の普及を図っている。